



Challenge Zero



サステナブルなソリューションカンパニーとして カーボンニュートラル社会に貢献

(株)ブリヂストン

日本で排出されるCO₂のうち約18%が運輸部門によるものであり、自動車業界、航空業界などの様々な企業が、その削減に取り組んでいる。モビリティ事業を支えるタイヤメーカーも、生産段階での省エネルギー化やエネルギー転換を実施してCO₂削減に取り組むとともに、タイヤの使用段階での削減対策にも注力している。今回は、「未来のすべての子どもたちが『安心』して暮らしていくために…」を環境宣言として掲げるブリヂストンの「CO₂を減らす」取り組みを紹介する。

「事業が成長し続けても着実なCO₂削減」 を目指す

「最高の品質で社会に貢献」2021年に創業90年を迎えたブリヂストンはこれを不変の使命として掲げており、社会価値と顧客価値の創出を両立させながら、社会・パートナー・お客さまと共に持続可能な社会の実現に貢献し続けている。ブリヂストンは創業以来、商品・サービス・技術にとどまらず、あらゆる企業活動においてお客さまにとっていちばんよいものは何かを追求し続け、それぞれの時代において一人ひとりの安心・安全な移動と暮らしを支えてきた。

ブリヂストンは、環境中期目標「マイルストーン2030」で、①生産活動により排出するCO₂の総量を50%削減、②商品・サービスのライフサイクル、バリューチェーン全体を通じて、生産活動により排出するCO₂排出量の5倍以上のCO₂削減に貢献、という2つの目標を設定し取り組んでいる。これまでの環境目標では「売上高当たりの排出量(原単位)」での削減を目標としていたが、原単位のみに着目しては、事業成長に伴い排出されるCO₂の総量は増え続け、温暖化の抑制につながらない可能性がある。従って、「総量」に対する



環境性能と運動性能を両立する技術「ENLITEN(エンライトン)」を採用したタイヤ

目標を設定し、今後事業が成長し続けても、着実に「CO₂を減らす」ことを目指している。

低燃費タイヤの開発とソリューション事業の 拡充により削減へ

タイヤのライフサイクルにおけるCO₂排出量の約9割は、その使用段階で車両の排気ガスとして排出されるため、その削減に向けて低燃費タイヤやCO₂排出量削減に貢献するタイヤの開発・普及に取り組んでいる。タイヤの転がり抵抗の低減、軽量化などを図り、他の性能と高次元で両立することで、車両の燃費向上を実現するタイヤをグローバルに展開しており、2020年には2005年比で転がり抵抗を24%低減し、約1200万トン相当のCO₂排出量削減に貢献している。

また、鉱山用車両や航空機においてタイヤやゴムに関する知見とタイヤデータ・モビリティデータを掛け合わせて新しいシステム価値を創造する「ソリューション事業」を拡充している。具体的には、独自の摩耗・耐久予測技術や運行状況のモニタリングなどにより、オペレーションの最適化、運送事業者の安全性・効率性などの向上に貢献している。また、これにより、事故・トラブルの未然防止、タイヤ資産の最大活用といった顧客価値に加え、資源生産性の向上や資源循環、タイヤのバリューチェーン全体におけるCO₂排出量の削減にもつながっている。

モビリティ事業を支えるブリヂストンは、サステナブルなソリューションカンパニーとして社会に貢献し続けていく。

k

(国内広報部主任研究員 塩入真理)